

FDI 2009 Annual World Dental Congress に参加して

大学院生
(う蝕学分野) 浅井 哲也

2009年9月2～5日までの期間シンガポールで開催されたFDI 2009 Annual World Dental Congressに参加いたしましたので、ご報告いたします。

まず始めに、今回の第一目的であるシンガポールで開催された学会の話から行っていきます。

学会は、SUNTEC International Conventional & Exhibition Center (Fig. 1、2)で行われました。4日間の学会開催期間中、私のポスター発表は2日間あり「Effect of glazing on the fracture strength of

dental CAD/CAM ceramic materials」というタイトルで発表させていただきました (Fig. 3、4)。研究の内容を簡単にご説明しますと、CAD/CAM (Computer Aided Design/Computer Aided Manufacturing) で使用されるセラミックス材料の表面処理 (研磨およびグレーズング) を行った場合の破折強度を、実際の臨床を想定したレジンセメントによる人歯接着条件下にて比較検討した研究です。海外発表は3回目でしたが発表前は緊張しました。当然、海外のドクターからの質問や研究ディ



Fig. 1



Fig. 3



Fig. 2

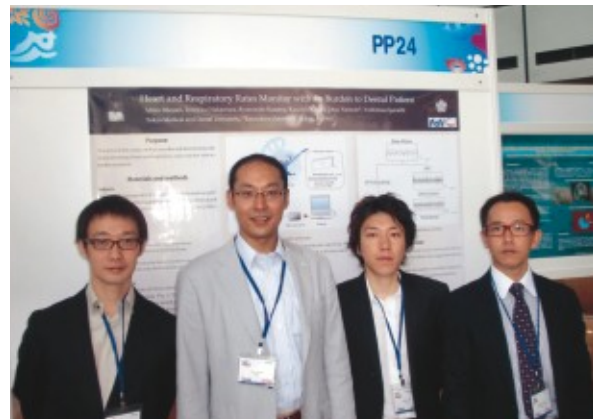


Fig. 4

スカッションは英語を通して行われます。色々と質問等ありましたが、自分の英語が通じていたかは疑問で、英語の出来なさをあらためて痛感しました。

また、学会では様々な興味深い公演、ポスター発表がありました。その中でも特にオールセラミック修復全般の公演をされた Dr. Fradeani Mauro、ISCD (International Society Computerized Dentistry) Symposiumで公演されたDr. Wiedhahn、Dr. Reiss は私が大学院の研究および臨床でおこなっているCAD/CAM システム (CEREC) の内容でしたので、とても興味深いものでした。CEREC とは、窩洞形成および支台歯形成後、チェアサイドで専用のカメラを用い光学印象採得を行い、その情報をもとにコンピュータ画面上で設計したセラミック修復物をすみやかに製作するシステムです。

Dr. Wiedhahn の公演では、今後導入される CEREC の新しい材料や CEREC と CT がコラボレーションすることで、CEREC から歯列情報を、CT から骨の情報を得ることでインプラント治療にも今後、大きく役立つものとなると話がありました。

Dr. Reiss の公演では、CEREC の長期症例を含めた様々なケースを見させて頂き、臨床での新たなポイント等を知ることが出来ました。

Dr. Fradeani Mauro の公演では、オールセラミック修復治療における診断、形成および修復物に対する咬合をセラミックの材料の性質とともに全顎症例ケースを用いてお話がありました。

その他にも今後の研究や臨床に役立つ情報を得ることが出来有意義なものでした。

学会の話はこのあたりで終わりにいたしまして、シンガポール観光等の話をしていきたいと思えます。

シンガポールといえばマーライオンとF1が開催される国として有名だと思いますが、このマーライオンが「世界3大がっかり」に含まれていることを皆さんはご存知でしたか？ (その他2つはコペンハーゲンの人魚像、ブリュッセルの小便小僧)

日本を出発する前に「世界3大がっかり」に含まれていることを知っていた私はマーライオンにそこまでの期待はせず、きれいな町並、ローカルフード (Tiger Beer 等)、学会での資料収集に期待し、シンガポールに向かいました。

2日目の学会後、一緒に行った東京医科歯科大学の先生方とシンガポールの町を色々探索していたところ偶然マーライオンを見つけました。

その時、「がっかり」ではなく、「すげー」と思った私がありました。大きさも思った以上に大きく、ビックリしたので写真撮りました (Fig. 5)。→皆さんも、シンガポールに行かれた際には観光に行ってもよいかもしれません。

また食事面では、ホーカーズ (路上屋台) で食べられるローカルフード (チキンライスなど) やアラブストリート、チャイナタウンの各地域の料理も食べることが出来ます。(Fig. 6, 7)。お酒は特にシンガポールで作られたカクテル (シンガポールスリング) やビール (Tiger Beer) がお勧めです。→シンガポールスリングはかなり甘いカクテルでした。

シンガポールの町は月末にF1が開催されることもあってか、道路には観客席が作られ、テレビのニュースなど色々なところでF1開催モードになっていました。ホテルにもペットボトルで作られたF1が飾られていました (Fig. 8)。→学会の日程とF1開催日がかぶっていたらラッキーだったのですが……。



Fig. 5

いろいろな経験をしたシンガポール滞在4日間は、あっという間でした。海外の学会は参加するたび、色々な面で刺激を受けます。その刺激を今後の研究や臨床にいかして行きたいと思います。

最後になりましたが、海外での貴重な学会発表をさせて頂きました興地教授、ご指導頂きました福島教授および東京医科歯科大学 風間先生、快く送りだして下さったう蝕学の先生方この場をお借りして感謝申し上げます。



Fig. 7



Fig. 6



Fig. 8

